



亡き妻のがん闘病記、第2版出版を記念して

著書を市内の図書館と中学校図書室へ寄贈について

市内在住で、昨年7月、亡き妻のがん闘病記を出版した高井保秀さんが、先月末に第2版が出版されたのに合わせて、著書10冊を市に寄贈頂くことになりました。

高井さんは、著書を市内図書館や中学校図書室への寄贈を通して、多くの市民や中学生に自著を読んでもらい命の大切さや家族の健康、些細で平凡な日常の尊さなど、改めて考えるきっかけに役立てば、と話しています。

【表敬訪問】

- 1 日 時：令和元年2月19日（水）14時00分から 場所：市役所本庁 市長応接室
- 2 訪問者：高井 保秀（たかい やすひで）さん 市内白山在住
- 3 寄贈品：著書「瑠美子、君がいたから～二人で歩んだ人生ノート～（亜璃西社）」 10冊
寄贈先：市内10箇所（アビスタ本館など市内図書館4館と市内中学校6校）
- 4 出席者：星野 順一郎市長 、 倉部 俊治教育長



（表紙：地元手賀沼親水広場の夕陽）

【問い合わせ】

我孫子市総務部秘書広報課

あびこの魅力発信室 担当 深田・山田

☎ 04-7185-2493（内線 235）

メール abk_miryoku@city.abiko.chiba.jp

(資料)



著者プロフィール

高井 保秀（たかい やすひで）さん 市内白山在住

生年月日：1952年（昭和27年）10月7日 67歳

・大阪府岸和田市生まれ。岸和田高校、北海道大学水産学部卒業。食品輸入商社で国内営業・人事畑を長く経験する。44歳の時に、米国ロサンゼルスにある食品スーパーマーケットの経営を4年余り担当。帰国後は外食事業部、総務人事部などを管掌したのち取締役役に就任。妻のがん発病を機に61歳で取締役を退任し、闘病生活を二人で歩む。知人の要請で、医療機器の研究開発の会社に常勤監査役として招かれ、非常勤監査役として現在に至る。

著書 「瑠美子、君がいたから 二人で歩んだ人生ノート」 出版：亜璃西（ありす）社、1,500円+税

初版：2019年7月31日 第2版：2020年1月31日

作品紹介・・・肺腺がん（肺がんの一種）が脳へ転移し「がん性髄膜炎」となった妻。そこから始まった、緩和ケア病棟での233日間におよぶ孤独な闘い——。患者や患者の家族が知りたい、症例の少ない「がん性髄膜炎」の病状を克明に記録するとともに、最愛の人との出会いから看取りまでを綴った、亡き妻への鎮魂歌（レクイエム）。

著者まえがき・あとがきより・・・がん性髄膜炎の診断を受けてからの生存期間は、中央値で三か月余とされています。妻の場合は入院二か月半が過ぎた時に、その診断から一年が経っていました。（中略）また、がん性髄膜炎の症状の進行をインターネットで調べましたが、情報が少なく詳しいことが分かりません。患者や患者の家族が知りたい、「病状はどのように進行していくのか」ということが分からず、手探り状態の看病が続きました。（中略）こうして、「妻のがん性髄膜炎の症状の進行を記録に残せば、誰かの役に立つのではないか」と考えるようになったことが、この本を執筆した動機です。

版元から・・・症例の少ない、がん性髄膜炎の病状を克明に記録した本書は、同じ病と闘う患者や患者の家族に少しでも役に立ちたいという著者の思いから刊行されました。